

平成 28 年 2 月 8 日

各 位

リアルコム株式会社  
代表取締役社長 龍 潤生  
(コード番号: 3856 東証マザーズ)  
問合せ先: 取締役 吉永正紀  
電話: 03-6864-4001 (代表)

## 「内部統制報告書の訂正報告書」の提出に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 9 月 30 日に提出いたしました第 16 期内部統制報告書（自 平成 26 年 7 月 1 日 至 平成 27 年 6 月 30 日）の記載事項の一部に不備があり、金融商品取引法第 24 条の 4 の 5 第 1 項に基づき、平成 28 年 2 月 5 日付で内部統制報告書の訂正報告書を提出いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 訂正の対象となる内部統制報告書

第 16 期内部統制報告書（自 平成 26 年 7 月 1 日 至 平成 27 年 6 月 30 日）

#### 2. 訂正の内容

上記の内部統制報告書の記載事項のうち、2【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】を以下のとおり訂正いたします。訂正箇所には下線    を付して表示しております。

##### 2【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】における以下の記載内容について (訂正前)

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、連結ベースの連結売上高の概ね 3 分の 2 を占める事業拠点を評価の対象としました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び仕入、棚卸資産、売上原価に至る業務プロセスを評価の対象としております。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点を含めた範囲について、財務報告への影響を勘案して、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測・評価を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスを個別に評価対象に追加しております。

##### (訂正後)

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、連結ベースの連結売上高の概ね 3 分の 2 を占める事業拠点を評価の対象としました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び仕入、棚卸資産、売上原価に至る業務プロセスを評価の対象としております。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点を含めた範囲について、財務報告への影響を勘案して、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測・評価を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスを個別に評価対象に追加しておりますが、当連結会計年度においては重要なものはないと判断し、評価対象としておりません。

以 上